

第 1 期

平成23年度

報告書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)



サノヤスホールディングス

証券コード：7022

変化への抵抗力と対応力を備えた組織に

株主・投資家の皆様には平素は格別のご高配を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

サノヤスは1911(明治44)年に造船業として創業し、昨年4月に創業100周年を迎えました。創業第二世紀における更なる社業発展を期して、今般、持株会社・分社化による会社組織の再編を行い、1月より新体制をスタートいたしました。

持株会社(サノヤスホールディングス)のもと造船、陸上、レジャー、サービス事業の計14事業会社で構成される「サノヤスグループ」の共通スローガン『確かな技術に まごころこめて』を旗印として、各事業会社はそれぞれの事業環境に応じたビジネスモデルを再構築し、独立採算のもと、規模の拡大と収益力の強化を図ってまいります。



代表取締役社長
上田 孝

売上高、経常利益ともに実質過去最高

造船事業については、平成20年9月のリーマン・ショック以前に受注した高船価、高採算の案件を順調に建造引渡しました。これに対して、陸上事業については、底を脱したものの、国内設備投資が依然として低迷する等、厳しい環境にさらされました。また、レジャー事業では震災の余波で遊園地入場者の減少の影響を受け、厳しい状況が続きました。

3つのポイント

- 1 新造船の受注残に支えられ、当期の連結業績は売上高、経常利益ともに実質過去最高
- 2 持株会社・分社化により、陸上各社は独立採算による自立・自律を目指します
- 3 造船事業はグローバル大競争時代を乗り切るためエコシップの開発・受注に注力します

このような経営環境の中、サノヤスホールディングスの連結業績は、売上高730億23百万円、経常利益77億27百万円、当期純利益12億36百万円となりました。

売上高は「工事進行基準」の適用初年度で工事完成基準に工事進行基準が加わり、かさ上げがあった平成22年3月期を実質上回っており、経常利益とともに過去最高の数字となりました。しかし、これはあくまでもリーマン・ショック以前の好調な新造船受注を反映した数字であり、足下の実態は非常に厳しい状況で推移しております。

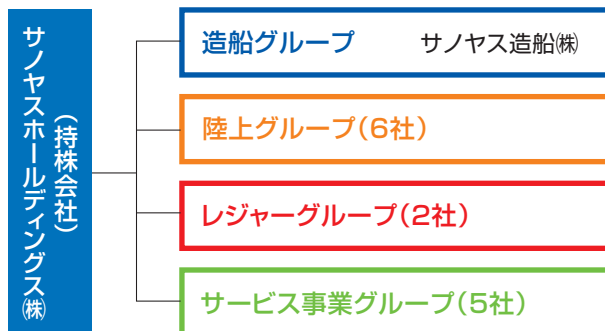
ホールディングス体制移行で「実行、行動の年」に

業績を向上させるためには準備が必要です。まず組織が変われば人の意識が変わり、人の意識が変われば行動が変わり、そして行動が変われば結果が変わります。私は3年前にサノヤス・ヒシノ明昌の社長に就任して以来、組織を変え、意識を変えてきました。そして、今年はホールディングス体制へと移行し、いよいよ「実行、行動の年」となります。

ホールディングス体制へと移行した狙いの一つは、連結経営のレベルアップにあります。サノヤスグループはこれまでコア事業である造船事業以外の分野に進出し多角化を図ってきました。これらの多角化した事業を整理し、ホールディングス体制のもと、14事業会社をフラットに並べ、個々の事業会社の自立・自律を図ることとしました。

その一方で持株会社の役割として技術、資材については事業会社の中で最適なものをグループ内の他社に生かせるよう、サノヤスホールディングスに技術支援室、資材支援室を設けました。また、陸上グループ6社については陸上統括室を設けてガバナンスの充実とクロスセルによるシナジー効果の創出を図ってまいります。

平成24年1月4日よりスタートしたサノヤスグループの組織図



陸上各社の自立・自律に向けて

今回のホールディングス体制の最大の目的は、陸上各社の自立・自律です。もう一度各社が独立採算の意識を徹底して、自社の収益構造に照らし合わせてあらゆるコストを見直していかなければなりません。そのためには意識、行動を変えていく必要があります。

同時に事業機会を積極的に求めていきます。たとえば、工船用エレベーターや化粧品攪拌装置はその分野でトップシェアを占めていますが、こうした技術をグループ内で活用し、新しい組合せによる製品開発を行ってまいります。すでに各事業会社で取り組みを始めており、今後の収益に寄与することを期待しています。

また、グループ各事業とのシナジーをキーワードとして積極的にM&Aも進めてまいります。

※陸上各社とは陸上グループ、レジャーグループ及びサービス事業グループを表しています。

エコシップの開発で受注残を確保

今、造船業界は二つの過剰に直面しています。一つは、リーマン・ショック以前の世界的な好景気を受け大量に発注されたことによる船腹のオーバーサプライです。そしてもう一つは、増大する受注量に対応するために、特に中国の造船各社がこぞって設備を増強したことによるオーバーキャパシティです。造船業界がこの二つの過剰が生む苦境から早期に抜け出すことは難しく、現在の受注状況から判断すると、当面は厳しい状況が続くであろうと考えています。「正念場」という言葉は英語で「Now or Never」という元々の意味がありますが、まさに今やらなければ将来はない、という気持ちです。

この厳しい状況の中で、受注残を維持していくために取り組むべきことは、①燃費効率の高い船を造る、②船価で競争力が持てるよう徹底したコストダウンを進める、③顧客ニーズの変化への対応力をつける、④年間8～10隻建造でコストパフォーマンスを極大化できる最適体制を構築する、の4つです。

中でも現在の最大のテーマは高い燃費効率を実現するエコシップの開発です。現在、主力製品は83千重量トン型のパナマックス・バルクキャリアー(83BC)ですが、1日あたりの燃料使用量を29トン程度にまで抑え、このクラスではナンバーワンの燃費効率を達成した82BCもすでに開発済みです。また、ハンディーケープと呼ばれる120千重量トン型BCについても燃費向上を目指した船を開発中です。

現在の受注残は3年弱ですが、今期の引渡し分を最低でも数隻の新規受注でカバーし、結果として平成24年度末には2年半程度の受注残を確保する計画です。

「確かな技術に まごころこめて」

ホールディングス体制への移行を機にグループ共通スローガン、『確かな技術に まごころこめて』を掲げました。サノヤスグループは常に優れた技術を持ち続ける会社でありたいと思います。その技術の担い手は人であり、“人財”の質をいかに高め、その総和としての企業力を高めることが今、一番大事なことだと考えています。

持株会社を含め15社を併せた従業員数は約1,400人になります。この1,400人がそれぞれの部署において目標を達成し、各社が独立採算を徹底していくことと同時に、“チームサノヤス”としての一体感を高めながら、厳しいグローバル大競争時代を勝ち抜いていく所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



第1期(平成24年3月期) 連結財務ハイライト

○経営状態	○財政状態	○1株当たり指標
売上高 730億23百万円	総資産 731億70百万円	1株当たり当期純利益 37.94円
経常利益 77億27百万円	純資産 154億82百万円	1株当たり純資産 448.22円
当期純利益 12億36百万円	自己資本比率 20.0%	1株当たり配当金 5.0円

TOPICS

サノヤスホールディングス誕生

平成23年10月3日、サノヤスホールディングス株式会社が組織再編により設立され、大阪証券取引所第一部に上場し、同証券取引所において上場セレモニーが執り行われました。証券コードは7022となりました。

そして平成24年1月4日、サノヤスグループの事業を造船事業、陸上事業、レジャー事業、サービス事業の4つの事業グループに分け、そのグループ内で14の事業会社をサノヤスホールディングスの下に並列的に配置する新組織体制をスタートしました。

(サノヤスグループ組織図は10頁に掲載しています。)



平成23年10月3日 有価証券上場通知書を手
当社 上田社長(左)と大阪証券取引所 米田社長(右)

セグメント概況

造船事業

平成24年3月期 売上高 **588億9**百万円

当期は厳しい受注環境の中、新造船については為替及び資機材価格動向を見極めつつ受注活動を行い、新83千重量トン型のパナマックス・バルクキャリアー等5隻を受注しました。その結果、当期末の受注残高は889億87百万円となりました。

新造船の引渡しは、78千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー1隻、83千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー9隻及び120千重量トン型ハンディーケープ・

バルクキャリアー1隻であり、修繕船等を加えた当該事業の売上高は588億9百万円となりました。

営業利益は、歴史的な円高の昂進に伴い翌期以降に引渡す船舶の一部において受注工事損失引当金を8億87百万円計上しましたが、鋼材をはじめとする資機材価格の引下げと生産性向上に努めた結果、107億26百万円となりました。



120千重量トン型
ハンディーケープ・バルクキャリアー
「NORD CETUS」 (サノヤス造船株)



83千重量トン型
パナマックス・バルクキャリアー
「SPRING AEOLIAN」 (サノヤス造船株)

陸上事業

平成24年3月期 売上高 **99億62**百万円

建設工事中用機械製造・レンタル、機械式駐車装置製造・保守、機械部品製造、化粧品製造用機械製造、自動車部品製造、空調・給排水・環境工事の陸上事業においては、厳しい国内設備投資環境において顧客ニーズに即した受注活動を行い、当期末の受注残高は30億78百万円となりました。売上高は99億62百万円、営業利益は4億87百万円となりました。



三宅村汚泥再生処理センター「汚泥脱水設備」
(山田工業(株))

レジャー事業

平成24年3月期 売上高 **38億58**百万円

遊戯機械製造及び遊園地運営等を行うレジャー事業においても、顧客ニーズに即した受注活動を行い、当期末の受注残高は5億62百万円となりました。売上高は38億58百万円、損益面は各種合理化に努めましたが、豪州観覧車の保証工事引当金18億75百万円を追加計上したこと等から17億7百万円の営業損失となりました。



ハウステンボス「白い観覧車」
(サノヤス・ライド(株))

連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	金額 (単位: 百万円)
	当連結会計年度 (H24.3.31)
資産の部	
流動資産	49,761
固定資産	23,408
有形固定資産	17,020
無形固定資産	693
投資その他の資産	5,694
資産合計	73,170
負債の部	
流動負債	38,353
固定負債	19,334
負債合計	57,688
純資産の部	
株主資本	13,995
資本金	2,538
資本剰余金	1,106
利益剰余金	10,356
自己株式	△5
その他の包括利益累計額	606
その他有価証券評価差額金	606
少数株主持分	880
純資産合計	15,482
負債純資産合計	73,170

連結損益計算書

科目	金額 (単位: 百万円)
	当連結会計年度 (H23.4.1~H24.3.31)
売上高	73,023
売上原価	60,374
売上総利益	12,648
販売費及び一般管理費	4,638
営業利益	8,009
営業外収益	313
営業外費用	595
経常利益	7,727
特別利益	6
特別損失	674
税金等調整前当期純利益	7,059
法人税等合計	5,835
少数株主損益調整前当期純利益	1,223
少数株主損失(△)	△12
当期純利益	1,236

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	金額 (単位: 百万円)
	当連結会計年度 (H23.4.1~H24.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,723
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△126
現金及び現金同等物に係る換算差額	△144
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,133
現金及び現金同等物の期首残高	28,076
現金及び現金同等物の期末残高(※)	24,007

※新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額等が含まれております。

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額		少数株主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	2,538	1,110	9,272	△9	12,910	751	751	855	14,518
当期変動額									
剰余金の配当			△195		△195				△195
当期純利益			1,236		1,236				1,236
株式移転による増減		△4		4	－				－
新規連結に伴う剰余金の増減			△3		△3				△3
非連結子会社との合併による増減			47		47				47
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△145	△145	24	△120
当期変動額合計	－	△4	1,084	4	1,084	△145	△145	24	963
当期末残高	2,538	1,106	10,356	△5	13,995	606	606	880	15,482

ポイント 1 連結純資産

当期末における連結純資産は、154億82百万円となりました。この主な内容は、利益剰余金103億56百万円です。

当期末の自己資本比率は20.0%となりました。当社は強固な企業体質を構築すべく、自己資本比率20%を維持することを当面の目標としており、更なる向上を図るため諸施策の確実な達成を目指します。

ポイント 2 当期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題として認識しており、企業体質強化に努めながら、業績に対応し安定した配当を維持・継続することを基本方針としております。

当期の期末配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。

会社概要 (平成24年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	平成23年10月3日
資本金	25億3,800万円
従業員	従業員数 38名 (連結 1,422名) 平均年齢40.3才
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号
東京支社	〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目6番12号

※平成24年7月2日より「東京支社」は下記の住所に移転いたします。

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番3号
サノヤスホールディングス株式会社 東京支社

同じく平成24年7月2日に「東京中央支社」を陸上グループ会社の東日本における営業拠点として新設いたします。

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番1号
サノヤスホールディングス株式会社 東京中央支社

株式情報 (平成24年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	32,600,000株
	株主数	3,511名

大株主	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
	サノヤス共栄会	2,551,200	7.83
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
	株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
	ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
	三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.45
	住友商事株式会社	1,000,000	3.07
	住石マテリアルズ株式会社	920,000	2.82
	住友金属工業株式会社	844,800	2.59
	MORGAN STANLEY & CO. LLC	752,000	2.31
	GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	744,500	2.29

(注) 1. 持株比率は、自己株式(22,353株)を控除して計算しております。

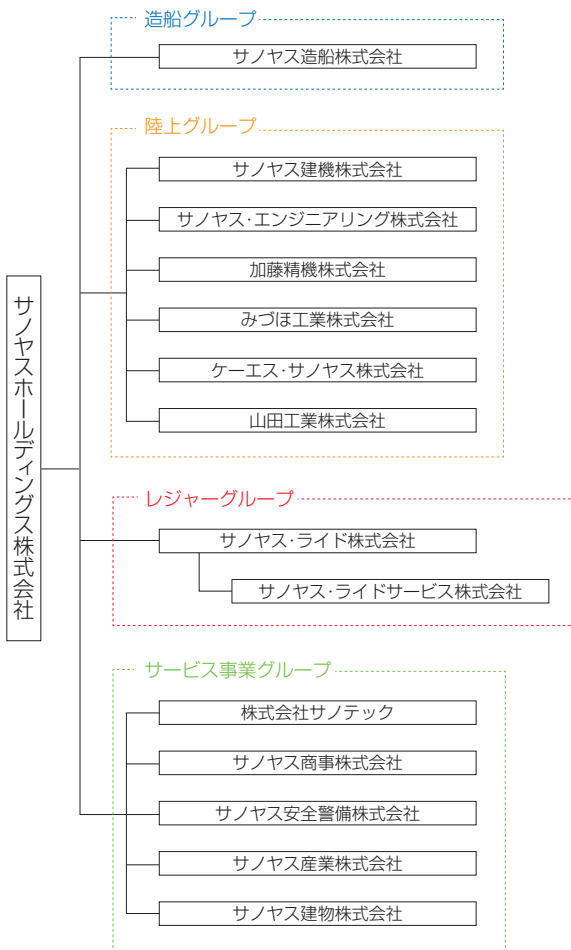
2. 住友信託銀行株式会社は、平成24年4月1日付で中央三井信託銀行株式会社及び中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、商号を三井住友信託銀行株式会社に変更しております。

役員一覧 (平成24年6月26日現在)

取締役及び監査役

代表取締役会長	落合 諒	取締役	衛藤 博司	常勤監査役	大屋 雄次
代表取締役社長	上田 孝	取締役	白神 敬治	常勤監査役	桐野 恭至
代表取締役副社長執行役員	森本 武彦	取締役	悦勝 三次	監査役	森 薫生
代表取締役副社長執行役員	竹原 久雄	取締役	篠原 照夫	監査役	平野 豊三郎
取締役	中道 保信	取締役	山本 周平		
取締役専務執行役員	浅間 成人	取締役	北川 治		

サノヤスグループ組織図



沿革

- 明治44年 4月 — 佐野安造船所創業
- 昭和15年 6月 — 佐野安船渠株式会社 設立(資本金150万円)
- 42年 6月 — 大阪証券取引所市場第2部上場
- 48年 4月 — 資本金14億3,000万円とする
- 49年 1月 — 水島造船所操業開始
- 49年 2月 — 大阪証券取引所市場第1部上場
- 59年 8月 — 株式会社サノヤスに社名変更
- 60年 2月 — 立体駐車装置事業に進出
- 平成 2年10月 — 株式会社サノヤスと菱野金属工業株式会社が合併する
- 3年 4月 — 株式会社サノヤスと明昌特殊産業株式会社が合併する
株式会社サノヤス・ヒシノ明昌に社名変更
- 5年 4月 — 高速エンジン整備事業に進出
- 12年 1月 — LPGタンク事業に進出
- 17年 4月 — 東京テクノセンター新設
- 19年 3月 — 資本金25億3,800万円とする
- 23年 4月 — 創業100周年を機にコミュニケーションネームとして「Sanoyas」を設定
- 23年10月 — 単独株式移転により持株会社 サノヤスホールディングス株式会社設立
- 24年 1月 — 持株会社 サノヤスホールディングスと14の事業会社による新組織体制をスタート

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-176-417
(平日午前9時～午後5時)

(インターネットホームページ)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

